すわみつえ通信

No.３２４　２０２４年 7月２２日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪　三津枝

連絡先　鴻巣市赤見台3-2-7
TEL：596-9440 FAX：507-4151
携帯：080-5039-2785
E-mail：mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで　すわみつえ

身近な議員として　もっと届けたい声がある　声をかたちに

日本共産党創立
１０２周年記念集会

伊藤岳参議院議員と秋山もえのトークセッションで大いに盛り上がる

7月15日(月)に日本共産党創立102周年記念集会が上尾文化センターで開催されました。伊藤岳参議院議員の国会報告と衆院埼玉6区予定候補・秋山もえ氏の決意表明に続き、ふたりのトークセッションで、日本共産党の目指す未来社会、また、党との出会いなどをお聞きしました。

政治資金規制法改定は法改悪

伊藤岳さんの国会報告の一つ目は「政治資金規正法の改定案」のこと。裏金で政治がゆがめられてきた。裏金の原資となった政治資金パーティー券1枚2万円。パーティーと言っても焼きそば一杯食べられれば良い方。莫大の利益が生まれる仕組みになっている。パーティー券を買った企業を優遇する政治が行われきた。自民公明党が言い出した政治資金規正法改定案は、政策活動費の使途の公表を10年後でいい。10年間使い放題のお墨付となるもので、手を貸したのが維新の会であることが報告されました。

地方自治体に国が「指示権」をもつ

二つ目は、改定地方自治法の成立です。政府が「国民の安全に重大な影響を及ぼす事態」と判断すれば、国に地方自治体への「指示権」を与え、自治体を国に従属させる仕組みをつくるものであり、憲法が保障する地方自治を根本から破壊するものであることが報告されました。

企業献金・団体献金・政党助成金をいっさい受け取らない日本共産党。戦争反対を貫いてきた102年の日本共産党を大きくすることが国民のための政治ができると思いを強くした集会でした。

原水爆禁止国民平和大行進2024　鴻巣から平和の声を

国民平和大行進とは、核兵器の廃絶を願い、北は北海道から、南は沖縄など全国各地から出発し8月の広島・長崎を目指し、歩くパレードです。1958年に行進が始まり、毎年、平和を願うすべての人が、一歩でも二歩でも一緒に歩くことによって行進はリレーされ、その願いや想いも紡がれ引き継がれます。

鴻巣では、7月18日(木)朝8時45分に鴻巣市役所駐車場で、出発式を行いました。並木市長の平和メッセージを危機管理監が代読し、市議会を代表して矢島副議長が「原水爆禁止国民平和大行進が今年も無事成功裏に終了し、この活動が大きなうねりとなって、多くの皆様の心に届くことをご期待申し上げます」とご挨拶を述べました。

8月に広島で開催される平和大会に参加する青年が平和への熱い思いを語り、北本の行進に繋げました。

【俳句コーナー】

はまなすやオホーツクの風　青き空　市川水色

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口　(火)北鴻巣駅東口　(水)北鴻巣駅西口　(木)吹上駅北口　(金)鴻巣駅西口

ひとり街宣　広がる　都知事選で注目　新しい民主主義の力示す

最終日の蓮舫さんの演説を聞いていた30代の女性は、マップでひとり街宣が可視化されて「住んでいる地域にも他の人の行動で印がついていてうれしくなりました」と言います。友人に誘われてひとり街宣をはじめた医師の青木正美さんは「デモの参加に比べて勇気は100倍いりますが、やってみると爽快感がすごくあった」と語ります。

東京都知事選挙で全国に広がった「ひとり街宣」。都知事選を通じて街角でプラカードを持って立った人は3000人を超え、東京都内の700以上の駅で行われたとみられることが、インターネット上に投稿された「ひとり街宣マップ」（中央の画像）でわかりました。同マップが活用され、ひとりでも立ち上がる市民の輪が大きく広がりました。（宮井貴光、若林明）

都知事選に合わせてXで「Standing With R」というアカウントを立ち上げ、「ひとり街宣マップ」を紹介したFusae（ふさえ）さんは、「1人ないし少人数の市民が街頭に立つことが重要、広めたいという思いがあった」と述べます。その上で、「初めて取り組んだ方々が多くいることには希望を感じる」と語ります。埼玉県の会社員の、りこぴんさん（写真左）は、出勤の前後に、10回以上ひとり街宣をしました。「がんばって」「ありがとうございます。僕もやります」などのエールが励みになりました。勇気をもって、政治にかかわる人々の姿は、日本の新しい民主主義の力を示しました。

一方で、今後考えるべき点も見えてきました。気候危機の問題に取り組んできた学生のAさんは、多くの人に政治的な問題に日常的に関心を持ってほしいとひとり街宣を行いました。Aさんはひとり街宣をやって「選挙運動は広げていく運動で、考えが違う人とどうつながるか。ひとり宣伝をきっかけに考えるようになった課題です」と言います。青木さんは「若い人たちは通行人から去り際に悪口を言われるなどしていた。みんな半端な気持ちで立っているわけではない。そうした人へのケアも考えてほしい」と訴えます。　（しんぶん赤旗【すいよう特集】7月17日付）

安心できる政権

新型コロナウイルスのまん延で在宅が呼びかけられた頃、手に取った一冊だ。小説「もしも徳川家康が総理大臣になったら」（真辺明人著）。コロナ禍の日本を舞台にしていて興味深く読んだ▼政府が新型コロナの初期対応を誤った中、首相も感染して不在となり、人工知能（AI）とホログラム技術で歴史上の偉人たちを復活させ、難局に当たるというストーリー。荒唐無稽な設定ながら「最強内閣」豪華な面々がそろう▼家康を首相に、官房長官に坂本龍馬、経済産業相に織田信長、財務相に豊臣秀吉、外相に足利義満・・・。小説を原作にした同名映画が7月26日から全国公開予定である▼原作では備中足守藩出身の蘭方医で江戸末期に天然痘やコレラと闘った緒方洪庵が「厚生副大臣」として登場する。映画でも出番があるのかどうか気になるところだ▼新型コロナを巡っては、政府の対応の遅さや不手際が指摘された。作品が映画化されるほど人気を集めた背景には、安心できる政権を求める読者心理もあったろう▼今の政権に目を転じれば、裏金問題で国民の信用を大きく失った。首相選びに直結する自民党総裁選が間もなく本格化する。現職を含め、さまざまな名前が取り沙汰される。「もしも〇〇が首相になったら」。国民が期待を込めて、そう語るような論戦が繰り広げられるだろうか。　【山陽新聞　7月17日付】